

第1回 草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会 会議録

- 日時：令和2年8月3日（月）15時00分～17時00分
- 場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつUDCBK
- 出席委員：石垣委員、梅村委員、棚橋委員、田村委員、橋本委員、花澤委員、武田委員、岡井委員、伊藤委員、足立委員、有村委員、笠井委員、新谷委員、長谷部委員
- 欠席委員：野口委員
- 傍聴者：1名
- オブザーバー：昭和株式会社4名
- 事務局：草津未来研究所 堀田理事、中瀬参事、坂居専門員
草津未来研究所兼都市計画課 一浦副部長、松浦課長、中井係長

1. 開 会

【事務局】

皆様、こんにちは。定刻になりましたので、只今より、第1回草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会を開催させていただきます。

まず始めに、草津市総合政策部理事で草津未来研究所副所長の堀田が御挨拶申し上げます。

【堀田理事】

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

さて、草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会につきましては、南草津エリアまちづくり推進ビジョンを策定するため意見を交換することを目的に、今年度初めて設置し、皆様には7月1日付けで委員の委託をさせていただいたところでございます。

南草津エリアにつきましては、南草津駅の開業や立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開学を契機として、世代を越えて多くの方々が交流する、活力ある市街地として発展を遂げてまいりましたが、一方で、交通渋滞の慢性化や、既存の地域資源や公共施設の連携や活用が不十分であること等、まちづくり上の課題が見受けられる状況にございます。

そこで、南草津駅の開業から25周年の節目に際して、駅周辺とその周囲の地域も含めた南草津エリアを設定し、現時点におけるエリア内の現状と課題を整理をする等、本市の総合的なまちづくりを、いっそう推進していくために、南草津エリアまちづくり推進ビジョンを策定する予定であり、皆様からの御意見を参考にさせていただきたいと考えているところでございます。

なお、ここ、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ、UDCBKにつきましては、設置してから今年で4年、そして現在の場所に移転してから今月でちょうど3年が経過したところでございます。UDCBKは、産学公民の様々な主体が気軽に集い、本市の未来の

まちづくりについて学び、交流や連携をすることで、幅広くまちづくりの課題解決に取り組む場でございます。

今回のみなくさビジョンの検討につきましても、産学公民連携のプラットフォームである UDCBK で多様な知見を持ち寄り、自由闊達に意見を交わし、南草津エリアの未来を見据えた将来ビジョンを描いていく必要があると考えております。

本日は委員の皆様には、それぞれのお立場からぜひとも忌憚のない活発な発言を頂戴したいと存じますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、次に配布資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の報告)

なお、本日の傍聴者は1名でございますので、よろしくお願いいたします。

本日、西日本旅客鉄道株式会社の野口委員については御欠席でございます。

続きまして自己紹介に移らせていただきます。

2. 自己紹介

それでは、お手元の資料1の委員名簿の順番に自己紹介をお願いいたします。自己紹介の際には、お名前と所属、当懇話会に対しての思い等をあわせて1分程度でお願いします。

(各委員自己紹介)

3. 座長および副座長の選出

それでは、次第に沿いまして進めてまいりたいと存じます。

草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会開催要綱第4条第2項に基づき、座長および副座長を委員の互選により決めたいと思いますが、皆様、いかがいたしましょうか。

(互選により、座長に武田委員、副座長に棚橋委員を選出)

4. 議 題

(1) 南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みさくさビジョン)策定方針について

【座長】

それでは、議題(1)の南草津エリアまちづくり推進ビジョン策定方針について事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料の説明)

【A 委員】

みなくさビジョンと草津市都市計画マスタープランの地域別構想との関係性はどうか、なっていますか。みなくさビジョンは都市マスの下位計画にあたるのでしょうか。

【事務局】

都市マスは都市計画法に基づく土地利用や都市施設について計画するものであり、みなくさビジョンはハードにとどまらず、ソフトに関しても検討していきたいと考えています。

また、都市マスは方針を定め、みなくさビジョンは施策を定めていくものですので、都市マスの策定委員会との連携により、整合性を図っていく予定です。

【B 委員】

UDCBK 関連事業「都市と交通のシナリオスタディ」は 20 年後、みなくさビジョンは令和 12（2030）年度を目標年次にしてはいますが、他の計画を含め目標年次の関係性を教えてください。

【事務局】

都市マスの目標年度は将来を見すえて令和 22（2040）年度としています。みなくさビジョンでは、まず 10 年後までの取り組みを議論するために令和 12（2030）年度としており、随時更新していきたいと考えています。

【座長】

「都市と交通のシナリオスタディ」におけるワークショップでは、20 年後を見すえたアイデア出しを行い、みなくさビジョンにフィードバックできればと考えています。また、パブリックコメントだけではない市民参画の一つだと思います。

【C 委員】

各地域で様々な問題がありますが、交通問題が中心であると考えています。駅からの動線が大切であり、容易に短時間で大学や総合病院に行けるようにしていくべきです。

【D 委員】

県立体育館や美術館の整備が進められていますが、交通問題における草津市と滋賀県との連携はどうなっていますか。

【事務局】

道路・交通問題は、都市マスでも一番大きな問題として認識しています。

県立体育館及び美術館付近の道路としては山手幹線の整備が進められており、その効果として、国道1号の渋滞が緩和されると期待しています。

また、大津山科バイパスの整備についても国に要望を続けています。

【E 委員】

南草津エリアを市がどうしていきたいかが見えてきません。大学や企業、外国人や高齢者など、目標を定め共有していくことが重要だと思います。

【座長】

今の指摘は非常に重要だと思います。資料6ページの策定の当たっての視点がなぜ5つなのか、それこそがビジョンではないのかという意見もありますので、例えば相互関係、優先順位、上位の目標など今後御議論いただければと思います。

（2）南草津エリアの現況と課題について

【座長】

それでは、議題（2）の南草津エリアの現況と課題について事務局から説明をお願いします。

（事務局から資料の説明）

【A 委員】

昨年度、野路町において交通に関するワークショップを実施しました。その中の意見として、学生は駅と大学をバスで行き来するだけで地域住民との交流がない、学生も途中で降りるモチベーションが働かないという課題が出されました。

【F 委員】

桜ヶ丘、若草の高齢化率が高いのは高齢者施設が集積しているからでしょうか。また、アンケート回答数がアンケートの種類によって異なる理由を教えてください。

【事務局】

桜ヶ丘、若草の高齢化率が高い理由は開発時期が古いためです。

アンケート回答数は種類により回収数が違うこと、複数回答の質問もあるためです。

【C 委員】

滋賀県では「ビワイチ」（琵琶湖を自転車で1周すること）が流行っています。南草津エリアを拠点にする、自転車の貸し出しをするなどはどうでしょうか。若い人の意見

が聞きたいです。

【G 委員】

琵琶湖一周は学生でも一部の層のニーズに限られ、競技自転車は高価で盗難の心配があり、貸し出しはハードルが高いように思います。

また、学生は大学に学ぶためにきており、大半の学生は地域との交流に対する興味が薄いと思います。

【H 委員】

学生としては、駅前にショッピングモールや居酒屋、遊べる場所があれば満足するのではないのでしょうか。

また、学生がまちのどこに住んでいるのかわからない、イベントにおいても地域と交流する機会が少ない状況です。

【B 委員】

南草津エリアに学生はどれくらい住んでいるのでしょうか。

また、老上西学区の令和 22（2040）年度の高齢化率の推計値が低すぎるのではないのでしょうか。

【事務局】

現在の正確な学生数は分かりませんが、立命館大学びわこ・くさつキャンパス開学当初 6,000 人程度、最も多い時期に 18,000 人程度に増え、現在では 14,000 人程度になっており、その内の半数程度は草津市内に居住していると思われます。立命館大学に問い合わせ、実際の数字を確認します。

老上西学区の令和 22（2040）年度の高齢化率については確認します。

【I 委員】

パナソニックなどの工場の進出、住宅開発、イオンの出店、滋賀医科大学や立命館大学の開学など、草津市は行政の計画によるものではなく、民間活力によりまちが変わってきました。

何もせずとも人口が増えているなか、民間活力を活かしつつ豊かなまちづくりを目指してほしいです。また、高齢化率が高い地域では地域活動が継続できない状況であり、ソフト面に注力してほしいです。

【J 委員】

駅周辺にスタバのようなオシャレな店があれば、学生が留まってくれるのではないで

しょうか。

また、大学があるまちを活かし、介護ロボットなど研究技術を活かしたまちづくりを進めてはどうでしょうか。

【F 委員】

東近江圏医療福祉ビジョンのキャッチフレーズに「地産」「地育」「地療（老）」「地死」というものがあり、目標の概念として取り入れてはどうでしょうか。

また、全国的にみても草津市のように人口が増え続ける市町村は少なく、強みだと感じています。

【K 委員】

南草津エリアは朝夕の人の流れは多く渋滞していますが、昼間はゴーストタウンとなり滞留がないことが課題です。また、急激に住宅地が形成され、まちづくりが追いついていないように感じます。

南草津エリアのビジョンを計画しても、すでにまちが形成されているところに手を入れていくことは難しいように思います。

また、高齢化により地域活動が困難になっている地域があり、学生には草刈りや琵琶湖の清掃などのアルバイトやボランティアに取り組んでいただきたいです。

【事務局】

滋賀県では職住近接をコンセプトにあげていますが、南草津エリアについては、交通利便性を活かして、大阪、京都方面に働きに出る方が多いという特徴があります。

そのため、みなくさビジョンを検討する上では、駅前のニーズを把握することが重要であると考えています。

【H 委員】

便利さや都会さを好んで草津市に住んでいますが、それがなくなつたと仮定すると住む理由が見つかりません。特に若い世代は地域とのつながりが少なく、共同体としての地域交流などソフト面が大事ではないかと思います。

【I 委員】

草津市周辺には就職先が少なく若者は定着しづらい状況にありますが、3世代が住めるゆとりあるまちづくりが必要なのではないのでしょうか。

また、過去には学生のマナーが悪く、気軽に出歩けないまちであったこともありました。

【F 委員】

必ずしも3世代が同居するということではなく、若者や高齢者一人世帯でも安心して暮らせるまちを考えてもよいのではないのでしょうか。

また、教育環境において付加価値を見い出せれば、移住する人も増えるのではないのでしょうか。

【副座長】

14学区ごとの地域性を把握することが大切であると考えています。

南草津エリアは民間活力があるまちであることが強みであると思います。

また、地域との連携や学生のがんばりも重要であると思います。

南草津エリアは20年後の人口が8,000人増えるなど、日々まちに動きがあり、それを馴染ませ活かしていきながら、草津駅周辺のまちづくりの事例を参考にできるので、それ以上のまちにしていきたいと思います。

【座長】

南草津駅は滞留するようにできていません。

高齢化が進行している地域では300mに1か所は座れる場所がなければならないという話を聞いたことがあります。今後、高齢化が進んでいく一方で、学生と共存していけるようなまちとはどうあるべきかをしっかりと考えていきたいと思います。

また、今後の技術発展も視野に入れたまちづくりも求められると考えています。

5. その他

【座長】

ほか、皆様から何かありませんか。

【事務局】

限られた時間の中での意見交換になりましたので、また帰られた後、追加の御意見等がありましたら、メールか電話で都市計画課またはUDCBKへ連絡をお願いします。

6. 閉会

【座長】

これで議題を終了させていただきまして、事務局にお返しします。

皆様、議事の進行に御協力ありがとうございました。

【事務局】

本日は本当に忌憚なくいろいろな御意見をいただきました。今回の計画は行政だけが

作るのではなく、市民の皆様や懇話会の委員の皆様と一緒に作り、実行できる方向にもっていきたいと思いますので、次回も忌憚なく御意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。